

可茂農林事務所の普及活動状況（10月）

今月の重点活動

■ 茶 産地独自品種の育成に向けた二次選抜

他産地との差別化につながる特徴と希少性のある商品づくりのため、今年度から白川町と東白川村の茶業振興会が協力して、産地独自の特徴ある品種の育成に取り組み始めています。両町村の茶農家の協力を得て、5月に一次選抜した産地在来種茶園の株から挿し木を行い、育苗してきました。

4カ月程度育苗し、芽が伸びてきたため、茶商やJAめぐみと連携して、苗の生育状況、香りの特徴等から二次選抜を行い、23株から7株に絞りました。10月9日には、新たに別途選抜した7株の挿し木を行いました。

今後は、荒茶の評価をするため、製茶機で加工できる量の生葉が得られる面積分の苗の定植を行います。少しでも早く評価できるようにペーパーポットに挿し木を行うことで育苗期間の短縮を図り、来年3月に一部の苗を移植する計画としており、今後移植予定の白川町の茶園の準備を行っていきます。

（園芸産地支援係・広瀬貴士）



【芽伸びの良い苗（手前）】

売れるブランドづくり

■ いちご 12月の収穫開始に向けて

可茂地域では17戸の農家がいちごを生産しています。近年、毎年1～2戸の新規栽培者があり、今作では富加町で1戸が新規就農し、美濃加茂市と川辺町では2戸の農家が面積を拡大しています。

9月下旬に定植を終え、現在、株の育成中であり、10月中旬には蕾が出始めています。いちご農家では交配用のミツバチの導入を行うとともに、生物農薬の導入農家も増え、また、ハウス内の環境制御システムを導入している農家もあります。

農林事務所では、ハウス内の温湿度や二酸化炭素濃度をコントロールし（スマート農業）、より品質と収量が高いいちご生産を目指して農家とともに取り組んでいきます。

（園芸産地支援係・熊澤良介）



【生育中のハウス内】

■ かぼちゃ カボチャ生産農家栽培支援

JAめぐみのかぼちゃ生産者協議会が発足して今年で3年目となり、新規栽培者は9人増え、今年の会員数は59人となりました。現在は、冬至かぼちゃの生産を精力的に進めています。

今年は、長雨や猛暑などの天候不良でうどんこ病や、蔓割れ病の発生も多く、その防除対策を中心に農家と検討してきました。今年の出荷量（9月11日現在）は、約2,100箱（去年：1,900箱）と増加しています。

農林事務所では、引き続き、JAと協力しながら農家の栽培支援を行い、冬至かぼちゃの出荷が増えるよう支援してまいります。

（地域支援第一係・斉藤政隆）



【冬至かぼちゃ栽培の様子】

■ 堂上峰屋柿 ワーキンググループ会議を開催

産地の維持・発展を目的として、堂上峰屋柿振興会、JAめぐみの、美濃加茂市、農林事務所を構成員とした「美濃加茂市堂上峰屋柿産地振興プロジェクト推進委員会」が7月に設立しました。

具体的な振興方策について、下部組織の「ワーキンググループ」で検討を行っています。

10月16日に第2回ワーキンググループ会議を開催し、産地目標およびプロジェクト内容として担い手の確保と生柿生産の拡大を中心に検討を行いました。

振興会代表から、「生産量の拡大だけではなく、干柿平均価格も上げて総合的に農家収入を増やしてほしい」などといった意見が出ました。

次回は10月下旬に開催し、加工および販売について検討を予定しています。



【打合せのようす】

(園芸産地支援係・宮田洋輔)

多様な担い手づくり

■ 女性農業経営アドバイザー んふ農業女性次世代リーダー育成塾

女性ならではの経営分析や労務管理について学ぶことを目的に、9月29日及び10月13日に、県主催のんふ農業女性次世代リーダー育成塾が開催されました。可茂管内からは若手女性農業者1名の出席があり、農業経営に関する幅広い知識を学ぶとともに、参加者同士で交流を深めました。

10月13日には、農業女性の実践事例紹介として、可茂地区女性農業経営アドバイザーが講師に招かれ、自身の経歴や経営状況等を紹介し、若手女性農業者との活発な意見交換が行われました。

農林事務所は、今後も女性農業経営アドバイザーの活動を支援するとともに、地域の若手農業者との交流を進めていきます。



【経営事例を紹介するアドバイザー】

(地域支援第二係・加藤瑞穂)

■ 美濃白川就農応援会議 役員会の開催

10月21日、美濃白川就農応援会議役員会が開催され、役員、あすなる農業塾長、関係機関が出席しました。

上半期が終了し、あすなる農業塾長から、研修生2名(うち1名は給付金受給者)の研修進捗状況や就農準備状況について説明がありました。また、新規就農サポート事業の進捗状況や今後の活動予定が報告されました。

会議では研修生の確保が不安定であり、研修生募集活動の強化などについて意見が出されました。

農林事務所は、美濃白川就農応援会議の活動を積極的に支援し、担い手の育成・確保を進めていきます。



【研修状況を報告するあすなる農業塾長】

(地域支援第二係・加藤昌亮、黒川純子)